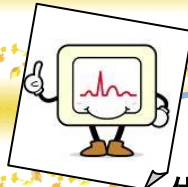


阿品土谷病院 看護部の職員紹介

阿品土谷病院には、看護師、准看護師、介護福祉士、看護助手、臨床工学技士など様々な職種のスタッフが勤務しています。今回は様々な職種のスタッフにスポットを当て、当院においてどのように感じながら仕事をしているのかを紹介します。

復職支援看護師

平成 24 年度、看護協会の「看護師復職支援」で 10 日間看護コースの研修を受け、それがご縁で就職が決まりました。はじめは、とても辛かったです。看護師長をはじめ、主任やスタッフの方に励まされながら、指導していただきました。今では仕事に慣れ、楽しみも増えました。



臨床工学技士

以前は会社員をしていましたが、人の役に立つ仕事をしてみたいと思い、臨床工学技士になりました。実際に透析業務についてみて、人の命に直接かかわることの重大さと責任を感じながら毎日働いています。これからも強い責任感を持って仕事に臨みたいと思います。そして、患者様から信頼されるようになりたいと思います。

男性看護師

入職してから 6 カ月経ち、まだわからないことも多いですが、少しずつ患者様の状態が分かるようになってきたと思います。女性の患者様に「男の人に清拭などを行われると恥ずかしい」と言われることもあるため、患者様の自尊心に配慮しながらケアにあたるように意識しています。これからも不安なことは上司や先輩に相談しながら、仕事を確実に身につけていきたいと思っています。

入職してから 3 年以上が経ちますが、まだまだ日々勉強になることが沢山あります。当院では男性看護師の数が少なく、自分自身もどのように患者様に対してアプローチしていけばよいのか手探りでやってきましたが、師長や周りのスタッフに支えられながら楽しく勤務を続けてこれました。男性だからと躊躇することなく、自分にできることを積極的にやっていき、患者様からもスタッフからも頼られるようになりたいと思います。



会社員から看護助手への転職

昨年の 6 月に入職して以来、1 年数カ月が過ぎ、ようやく仕事にも慣れてきました。私はこちらにお世話になる以前、大学を卒業してから約 18 年間営業職のサラリーマンとして仕事をしておりました。転職のきっかけは「そろそろお父さん、お母さんも 70 歳を越えて老後の世話もしないといけないから勉強のつもりで介護職頑張ってみたら？」という嫁の一言から。

配属された当初は専門用語もわからず右往左往するばかりで失敗ばかり・・・しかし、今までと違う職種と思っていましたが、同じだと思ったこともありました。それは人と人のコミュニケーションをしっかりと、いかに満足したサービス（医療）ができるかということです。どんな仕事も「人と心」が重要になると思います。これからも「人と心」を大切にしたいと思っています。

